

本校性教育の実情

附中性教育委員会 藤田喜久子・平野 謙治

I はじめに

筆者は、昭和47年に「性教育の意義と計画」を発表し性教育の必要性を提唱した。また、昭和60年には「かたり、きかせたき、ことども」において直接生徒に、性をどのようにとらえさせるかを語りかけの形式で書いた。その背景は、社会状況そのものがそれを必要としていたし、本校の生徒にしても決して眠れる獅子ではないと判断したからである。しかし、校内での反応は、さきの意義と計画のときにはけんけん、がくがく、とても性教育を口にする雰囲気ではなく「学校内にポルノは困ります」の一言が決定打となり沙汰やみとなった。「かたり、きかせたき……」にしても、他校の教師が「資料に使わせてもらっています」と連絡をくれることはあっても、自校内での活用はさっぱりである。「うちでも性教育をやらねば」という声が散発的にはあるが起っていることは確かである。しかし実際にはほとんど何もしいままに今日を迎えている。その間、松江市では学校保健会による「松江市性教育部会」が設立され、市教育委員会の強力なバックアップを得て性教育に関する研究がすすめられている。すでに年間カリキュラムにくみ込まれ計画的に実践されている学校もある。この性教育部会には、市内の幼、小、中、高（市立女子高校）から代表が出ており、自校の現状や実施状況などを報告し、また部会での決定事項を自校に持ち帰る役割を受けもっている。本校からも代表が出ておりこれとかかわりをもっている関係で、本校にも昭和59年に性教育委員会が設けられ、その窓口となっている。本年度は、数年前から検討されてきた「性教育の指導計画」がまとめられ「松江市学校（園）性教育指針」となって各学校におろされ、これにしたがって年間3時間の指導をするように要請されている。筆者も、ここに至って性教育は教科、領域全般にわたってすでに行われているのだとか、担任がやるべきだ、全体計画だ、共通理解だと言いたるばかりで一向に核心にふみ込めない現状の中で、とにかくやらなければならない、ということ的前提にして実際の指導案を考えてみることにした。

II 本校の取りくみ

- ① 松江市学校（園）性教育の指針（中学校の指導計画）が本年度示されたが、性教育を、人間の生き方にかかわることがらと捉えるなかで特に中学生は肉体と精神の発達が著しく、動揺しやすい時期であるという特殊性と、義務教育の終了であり社会に巣立つ者もいるという観点から慎重に、正確に、多角的に教育しなければならないと考える。このような見地から松江市性教育委員会は題材別のまとめ方と、分野別の分け方の両面から性教育を押えており、現場の教師がこの内容をしっかり勉強し生徒により指導がなされるようにとの期待が示されている。
- ② 本校の性教育の指導計画は、大まかに次のように考えている。

- 1年生は教科保健の心身の発達の単元で重なる面が多いので、その部分はしっかり押えてもらい、性教育の指導内容は教科で得た知識を下地にし性の基本的なことがらを学び、2年生は自らも激動の時期と表現するように急速に成長し変化する自分自身のエネルギーを、性の成熟と捉え男女の生理的な違いを理解し、それに伴うからだ、心の性差を知る。3年生は1、2年時の学習を基礎とし、恋愛（愛と性）、結婚、家庭の役割を考えさせ、それに含まれる妊娠、出産等のメカニズム、責任、協力、社会とのかかわりを理解させる。また、性に伴う疾病を正しく知る。
- ③ 本校の性教育委員会の各学年代表は、この性教育の指針を受け取り検討を加え、まず出来そうなところからやってみようということになった。それぞれが、学年にこれを伝達しているがなかなか実行に移せない状況である。実行できない原因の第一は今までやったことのないことをやらねばならない難しさがある。第二に性教育そのものがむづかしい。第三は、特活の時間が3時間分確保されてはいるが、年間カリキュラムの中に位置づけていないために学校行事、学年行事などの準備、練習、指導などに費やされてしまうことが多いなどである。こういう中で11月13日、2年の代表が行った指導を再現してみよう。

第2学年4組 特別活動（学級指導）指導案

昭和62年11月13日 第5校時
指導者 平野 謙治

1. 題 材 「心の性差」

2. 主題設定の理由

中学生の2年生ともなると、性的な欲求が現れ、性や異性に対する関心が高まる。また、異性に近づきたい、異性の友人を求めたいという欲求を持つようになる。しかし、異性に対する正しい理解が足りないために女子に対するいやがらせや男女間のちょっとしたトラブルが起りやすい。従って、この時期に、異性に対する心の働きを見つめさせ、男女の間がどうあればよいかを考えさせて、互いに相手を理解し、尊重しあって、自分を高めていくことのできるような男女関係を築こうとする態度や行動を育てることが必要である。

3. 指導のねらい

- (1) 男女の特徴や一般的な傾向を理解させる。
- (2) 異性との人間関係について理解させ、望ましい男女交際のあり方を考えさせる。

4. 指導資料

VTR、OHP

5. 指導過程

段階	生徒の活動	指導上の留意点	資料
導入	・異性のものの考え方や態度、行動などが、自分と違うと思ったことはないか	・異性をよく理解していないために、自分たちの態度や行動が問題になることに気づかせる。 ・本時の学習の見通しを持たせる。	OHP
展開	・VTRを見る。	・異性をどのようなかかわり方をすればよいのか考えながら見させる。	VTR

本校性教育の実情

展	<ul style="list-style-type: none"> ・性的欲求の発現のしかたについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発現のしかたに大きな差があることを理解させる。(男子が女子より早く関心を持つようになる。) 	OHP
望	<ul style="list-style-type: none"> ・性的刺激への反応は男女によって違いがあることを理解する。 ・異性に対する態度や行動はどのようにしたらよいか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性的刺激に対する反応の違いから日常生活でどんなことが起こるかを考えさせる ・互いに相手を尊重しあい、思いやる態度が大切であることを理解させる。 	OHP
整備	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の望ましい男女交際のあり方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなつきあい方がよいのか考えさせる。 	

6. 評価

- (1) 男女の特徴や一般的な傾向が理解できたか。
- (2) 望ましい男女交際について考えることができたか。

以下は、指導の流れの一部を示すものである。

<p>T 異性と違うと思っていたことはないですか。</p> <p>S(男) 女子の人はおしゃべりだ。</p> <p>S(男) 同じです。</p> <p>T 男子の考え方、行動については？</p> <p>S(女) 女子はちょっとした行動で何か言うけど、男子はさっぱりしている。</p> <p>S(女) 一緒に話す人が女子は固定的になるけど、男子はそうならない。</p> <p>T 男子の特性というか、男子のもちあじ、女子のもちあじがあるわけだ。これからいい人ができて……になっていくのにうまくやっっていけないこともある。お互いに異性を知るといってこれからビデオを見て男子の特徴、女子の特徴を話し合おう。</p> <p>〈VTR〉 題名 「異性とのかかわり」</p> <p>※ 主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異性の親友あり …… ヨーロッパ半数、日本少ない。日本は「あの2人できている」というような見方をする。 ・女子は男子と握手をしたとき、その行為自体を独立したものと見なすが男子はそれが刺激となって、さらに欲求を高める傾向が強い。 ・男子は性的に興奮しやすい。 ・女子は「いやらしい」「恥かしい」という意識が強い。 ・女子はムードによわい。 <p>〈板書〉 心のはたらき</p> <p>T 男女で差がある。→ 性的関心の発現 (OHPシート 性的関心の発現)</p>
--

〈板書〉 男女で差がある。

T 興奮を何で感じたのか → 特徴 (OHPシート 視覚的に雑誌をみて、男56%、女19.4%)

T どういう事に気をつけて交際するのがいいですか。

〈板書〉 交際していくとき

T グループで話し合ってください、ということに注意するか。

— 生徒はグループになって話しはじめる —

S(女) 自分のことばかりを考えずに相手のこと考える。

S(女) 生徒手帳に書いてあるとおりにする。純粹に明瞭に。

T 純粹、明瞭に行動するとはどういうことですか。

S(女) 学校がきめたことですからわかりません。

T あなたはそれを読んで、どう理解していますか。

S(女) 理解できません。

T 生徒手帳には型どおりのことしかでてないから、具体的には書いていない。

S(男) ドアをあける。

T 何のために。

S(男) 涼しくするために。

T 君あたりはカッコするんだな。

T 男子はとかく度をすぎることがあるんだな。

S(男) 協力しあう。

T 君は協力しあっていますか。何を協力しあうのか。

S(男) 勉強とか、掃除とか。

T 教えてもらったことは。

S(男) ありません。

T 教えてあげたことは。

S(男) ありません。

S(男) 尊敬しあう。

T どういう意味だ。

S(男) 間違いです。尊重しあう、いいところを認めあう。

T いいことを言ったな、男子は男子でいいところがあるし、女子は女子でいいところがある。

T 男子のいいところさっき出たな、さっぱりしているとか。女子のいいところは、にぎやか、おしゃべりかな。

S(女) 自分のことばかり考えない。

T 二人でいると思わぬことがおこる可能性がある。お互いに刺戟しあわないように気をつけることが必要。男子は視覚的にうけるといわれた。夏に薄着をしない。まあ、夏

は薄着するけど……。

- T 残りの時間ノートに、これから男子と女子が交際していく上でどういう点に気をつけたいか、ビデオの感想を含めて書いてください。

以上が授業の流れの一部だが、指導者の感想は「むつかしかった」であり参観させていただいた委員会のメンバーの意見はまず「性教育の授業をしたこと自体大きな前進である」と評価したのち指導の内容については、視点をもっと明確にした方がよかった。更に男子のいいところ女子のいいところをもっと出しあわせ、これが性差であり特徴であることに気づかせるとよかった。また初恋とかドアをなせ開けておかねばならないかなどを引き出し、適性の発言があったときみんながそれに気づくのではないかなどがあった。いずれにしても生徒の発言は非常に少なく、指名しても断片的なことしか言わない傾向があるため指導者はそれをどう取り上げてまとめ、意図する方向へ持っていくかなどむつかしい面が多くあることは確かである。

④ 指導案の改善

1年生 特別活動(学級指導)指導案 (3時間のうちの1時間目)

1. 題材 「性ってなんだろう」

2. 主題設定の理由

- (1) 人間は、生まれてから死ぬまでの生涯を通じて性的な存在でありながら、またこれほど多く性の情報を浴びせかけながら大人はみな素知らぬ振りをし、子どもたちに何も教えようとしなない。したがって見る、聞く、感じる、想像するなどによって自分なりの性のイメージを形作っている。大人の誰もが心の底をのぞかせないように、生徒たちのもつ性のイメージを知ることでもまたむつかしい。大人の、あるいは教師の責任として人間の生き方の大切なことの一つとして性をおおらかに、さりげなく、しかも正確に教えておくことが必要であると考え。
- (2) 4年前、当時の1年生に「性ってなんだろう」という問いかけをしたことがある。生徒たちは一様にばつの悪そうな表情をし、目を伏せた。チャイムがなって書かせた感想には「最初はエッチな話しかと思ったのに、いろいろな性があるということを知ってびっくりした」「初めはいやだったけど、そのうち真剣に聞くことができた」というのがほとんどであった。これは、逆に生徒たちのもつ性のイメージが恥かしいもの、エッチなものとして意識づけられていることをあらわしていると言える。自然におぼえるという理由で、そのお手本を週刊誌や、刺戟的なテレビの映像にゆだねるのはいかにも無責任なことであると思う。生徒たちが正しい知識を得ることによって精神的な安定と好ましい人生を送ることができるようにさせたい。
- (3) 性イコール男と女の性的なこと、というイメージがあるならばそれをぬぐい、性の本当の意味を示し気付かせると同時にその中で人間の性についてこの世に生を受けた時点から成長の段階において生ずる現象と、自分の成長とをだぶらせながら考えさせ恥かしいことでもゲラゲラ笑うようなことでもないことに気付かせたい。

3. ね ら い

性の指導を生理的な面、社会的な面、心理的な面で押えて一つの完成とする、という考えが通常となっているが、1年生の時にそれらをひっくるめたもののベースとなる性そのものを理解させておきたい。

4. 指導計画（1年時に3時間行うとして）

- (1) 性の定義を示し、そのうちの人間の性について、出生から思春期までの心身の変化を自分の成長と重ねあわせて考えさせる。（本時）
- (2) 人間の性の特徴を理解させる。
- (3) 性のルールと、性の移りかわりを理解させる。

5. 指導過程

展 開 の 大 要	期待する生徒の反応	指導上の留意点	備 考
1. 性を勉強する意味をつかむ。	何を話すのだろうか、という興味を示す。	平易なことば遣いで雰囲気明るくする。	教科の勉強をするのと同じように、性も学習するものであることを理解させる。
2. 性について（定義）考える。	自分の頭の中で、思いをめぐらせる。	定義をはっきり示しわかりやすく説明する。	O H P
3. 人間の性をとり上げる。 (1)男性と女性の区別を知る。	基本的には、男性と女性の存在であることを知る。	乳幼児期は、性に関する潜伏期であることにふれておく。	
4. 成長と共に変化するからだ、心について考える。 (1)ホルモンの働き (2)からだの特徴 (3)心の変化	自分の身体的成長の実感と、それをもたらすメカニズムを知る。身体の成長に伴ない変っていく心の動きに気付かせどんな風に変ったか言うことによって、より印象的となる。	生徒の共感を引き出すことと、思春期はめざめの時期であり、こういうことが性なのだということを考えさせる。	身体測定グラフや、視聴覚教材を使用する。

6. 評 価

出生から思春期までの、からだと心の変化なども性そのものの働きであることを理解し、これを当然のこととして自分で受け入れる気持をもつことができるようになったか。また、人間の成

本校性教育の実情

長には個人差があり、こうでなければならないという原則はないことが理解できたか。

Ⅲ おわりに

松江市の指針に示されている内容をアレンジし、自分の考えている性教育のパターンにあてはめて指導案を作ってみたが、50分の指導にこれだけの内容は多すぎると思う。しかし、とりあえず年間3時間という制約がある中でどうしてもこれだけは、と思う場合いきおい指導者側のしゃべり過ぎ、生徒にゆっくり考えたり発言させたりする機会を与えないなどの欠点が出ると思う。これを、もう少し内容をしばって一点集中主義でいくか、基本的なことなので教えるという立場をとるのかについては今後考えたい。学校内の共通理解を得ることが大切なことは当たり前であるが、かく言う筆者自身が非常なこだわりを持ち、性教育をあまり視聴覚資料に頼らず、ロマンティックに、さらりと楽しく聞けるような指導の場にできないものか、人生の夢や驚きまで奪うものであってはならないと思うし、「知りすぎたための味気なさ」を感じることがないようにもしなければと思うのである。

Ⅳ 参考資料

1. 題材別性教育指導指針（松江市学校保健会）

この指針は中学校3ヶ年のうちにこれだけのことは指導する必要があるという事項が成長過程に合わせて網らされ、指導に使う場合の視聴覚資料も記載されておりとても早い。生徒に資料を見せて性教育をしたつもりになることは危険であるが教師自身がその内容から学びとり、対象生徒に合わせた指導等に組み直し実践することは大いに価値があると思う。

中学校〈性教育指導計画〉

学年	学年目標	題材	目標	内容	資料			
					スライド	VTR	16ミリ	
1 学 年	男女の特性を理解し人格を認め合いお互いに尊重し合う態度を身につけさせる。	心とからだの発達 (I) [生]	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になると、子どもから大人になるための心身の変化、特に第二次性徴が急激にあらわれること、それには個人差があることを理解させ、自己への反応を図るようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生男子、女子の体の発育のようすや変化 第二次性徴と発現のしくみについて知る。 男子生殖器の発育と射精（精通現象）について理解する。 女子生殖器の発育と月経（初潮）について理解する。 第二次性徴には個人差があることを知る。 	「こんにちはは13才」	「男子の変化 女子の生理」	「思春期における性」 ○	「思春期における性」 ○
		心とからだの発達 (II) [心]	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期における心の発達の特徴、性的欲求の発現等について知らせ自己の心の働きについて理解を深めるとともに、対人関係に心くばりの必要性があることを気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の時期における心の変化 性的欲求の発現について知る（男女差） 性的欲求の統御について学習する。 中学生の時期における生活をどう送るか、特に、人間関係について話し合う。 	「思春期の心」	「思春期の心」	「思春期のための女性に」 ○	「男女交際」 ○
		男女の理解と協力 [社]	<ul style="list-style-type: none"> 男女のちがいを通じて男女にはそれぞれ果たさねばならない役割のあることを理解し、現在の自分 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭における父親、母親の役割について考える 社会生活からみた男性女性の重要性和活動面について知らせる。 	「男女の役割」			

			達はどうしなければ ならないかを知り相 互尊重、相互協力の 精神を養う。	・男女の分担と協力につ いて考え、現在の自分 達はどうしなければな らないかを話し合う。				
2	科学的理解 を過して性 に対する正 しい判断力 を培い、生 命尊重の精 神を養う。	性的な不安 [生] [心] 男① 女①	・中学生期には性的 成熟が急激にすすみ 性的な不安や悩みが 増えることを知り、 それに対応できる能 力を身につけさせる。	・からだの成長や、生殖 器官の発育について詳 しく知る。 ・性の機能に関する悩み について説明を聞く (勃起、変声、包茎、マ スターベーション、夢 精(精通現象)、個人 差、男女の性欲差 etc.) ・からだの成長や生殖器 官の発育について詳 しく知る。 ・性の機能に関する悩み について説明を聞く (初経(個人差)、タン ポン、薬物の利用(性 周期)、月経痛、月経 不順、胸の大小、おり もの、男女の性欲差、 貧血のこわさ etc.)	「正しく知らう 男子のからだ」	「正しく知らう 女子のからだ」	「男子のからだ」○ 「女子のからだ」○	「人間の生殖」○ 「いつの日か あなたも 女性」○○ 「見つめて いますか 体」○
		異性とのか かわり [心] 共①	・中学生期における 異性との人間関係に ついて理解させ、異 性を尊重した行動選 択ができる判断力や 態度を養う。	・幼児期から大人までの 男女関係の変化につ いて知る。 ・性差について理解する (男女差) ・思春期における男女関 係について考える。	「男女 かかわり」	「思 ひっきり 中学生」 NHK	「異性 かかわり」	
		性情報と対 応 [社] 共①	・性情報のもつ意義 を知らせるとともに、 それが自分たちに与 える影響について考 えさせ、性情報に対 する接し方や、性情 報を選択する能力を 身につけさせる。	・性情報は何から得て いるか確認し合う。 ・性情報のはんらん理 由について考え、正し い理解をする。 ・性情報が中学生に与 える影響について考 える。(性情報の誇張性や誤り) ・性情報が与える影響 を人間としてどう受け とめるかを考える。		「さ わやかに 青春」 からだ NHK	「生命 誕生」	「生命誕生」 ○ ○
3	人間の性の 特徴を知り、 お互いを尊 重し合い、 異性の幸福 を願う態度 や行為の大 切さに気づ く。	生命の誕生 [生] [心] 共①	・生命誕生のしゅみ を知らせ、生命創造 の神秘さと厳肅さに 気づかせ、生命の尊 重と人間尊重、人間 平等の精神を養う。	・生命誕生のしゅみに ついて知る。 ・生命誕生の神秘と生命 の尊重について考 える。 ・新しい生命はすべて平 等で、尊いものである ことを理解する。 (社会的主義)		「さ わや愛時 や青春に 性」 心 NHK	「中 学 や愛時 や青春に 性」 心 NHK	
		愛と性 [心] 共①	・性愛感情による男 女関係がもたらす諸 問題について知らせ 思春期から青年期へ かけての異性に対す る適切な態度や行動 について考えさせる とともに、愛に支え られた性でなくては ならぬことを理解さ せる。	・身体的・精神的な大人 への変化の中で、「愛と性」 に関係する内容をとり上 げて、今、自分のおかれ いる状況を知る。 ・人間の愛と性のつな がりを考え、愛の役割 について気づく。 ・人間の場「性欲」だ けでなく、愛情の表現 としての性があること を理解する。	「こ んにちは 青春」			
		性に関する 病気 [生] [社] 共①	・性に関する病気の 感染経路と病気の概 要、予防と治療につ いて知らせ、個人や 家族の幸福と、人類 の繁栄をはかるため 社会から撲滅しよう とする心情を養う。	・性病の種類を知る。 ・性病について学習する ・性病の予防について話 し合う。 ・性病予防の目的につ いて確認する。	「さ よなら 性病」		「妊 娠と性病」○	

※「さわやか 1巻…からだ」アーニ出版 中学生の性教育シリーズ ① 思春期の心 ② 異性とのかかわり ③ 男子のかかわり ④ 女子のかかわり 文部省体育局調査官 監修 日本性教育協会 企画

本校性教育の実情

2. 分野別指導指針（松江市学校保健会）

この指針は、性教育の目的はのぞましい人格の形成と、豊かな人生を過させるため行うものであるとし、片寄りのない指導をするために、先きの題材別指導計画の内容を、生理的側面、心理的側面、社会的側面に置きかえてみて、遺漏の有無を確かめたものである。実際指導の場合も、指導者はこの三側面を意識しておらねばならないと思う。

中学校 〈性教育〉

1年……男女の特性を理解し、人格を認め合い、お互いに尊重し合う態度を身につけさせる。						
2年……科学的理解を通して性に対する正しい判断力を培い、生命尊重の精神を培う。						
3年……人間の性の特徴を知り、お互いを尊重しあい、異性の幸福を願う態度や行為を身につけさせる。						
年	1	中学生になると子どもから大人になるため心身の変化、特に第二次性徴が急激にあらわれること、それには個人差があることを理解させ、自己への適応をはかるようにさせる。	中学生の時期における心の発達の特徴、性的欲求の発現等について知らせ、自己の心の働きについて理解を深めると共に、対人関係に心くばりの必要性があることを気づかせる。	男女のちがいを通じて男女にはそれぞれ果たさねばならない役割のあることを理解し、現在の自分達はどうしなければならぬかを知り相互尊重、相互協力の精神を養う。		
	2	中学生期には性的成熟が急激にすすみ、性的な不安や悩みが増えることを知り、それに対応できる能力を身につけさせる。	中学生期における異性との人間関係について理解させ、異性を尊重した行動選択ができる判断力や態度を培う。	性情報のもつ意義を知らせるとともに、それが自分たちに与える影響について考えさせ、性情報に対する接し方や性情報を選択する能力を身につけさせる。		
	3	生命誕生のしくみを知らせ、生命創造の神秘さと厳粛さに気づかせ、生命の尊重と、人間尊重、人間平等の精神を養う。	性愛感情による男女関係もたらす諸問題について知らせ、思春期から青年期へかけての異性に対する適切な態度や行動について考えさせると共に、愛に支えられた性でなくてはならぬことを理解させる。	性に関する病気の感染経路と病気の概要、予防と治療について知らせ、個人や家族の幸福と、人類の繁栄をはかため社会から撲滅しようとする心情を養う。		
	生理的側面	資料 VTR スライド	心理的側面	資料 VTR スライド	社会的側面	資料 VTR スライド
1年	心とからだの発達(体) ○ 第二次性徴と発現のしくみを知る。 ○ 男子生殖器と射精 ○ 女子生殖器と月経	「男子の変化・女子の生理」 ◎ 「こんにちは13才」	心とからだの発達(心) ○ 思春期における心の発達 ○ 性的欲求の発現・統御	◎ 「思春期の心」 20分 「思春期の心」	男女の理解と協力 ○ 男女の役割 ○ 相互尊重・協力	「男女の役割」

<p>2 年</p>	<p>性的な不安</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ からだの成長や、生殖器の発育について詳しく知る。 ・ 性の機能に関する悩みの解決、個人指導へつなぐ(勃起、変声、包茎、マスターベーション、夢精、性欲)(月経痛、月経不順、胸の大小、おりもの) 	<p>◎ 「男子のからだ」 20分</p>	<p>異性とのかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 男女関係の変化(幼児期 → 大人まで) ○ 性 差 ○ 思春期における男女関係 	<p>◎ 「異性とのかわり」 20分</p>	<p>「男女のかわり」</p>	<p>性情報と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 性情報のもつ意義 ○ 性情報に対する接し方 ・ 性情報の選択 ○ 性犯罪・性非行 	
<p>3 年</p>	<p>生命の誕生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい生命を創り出す生殖器の発達 ・ 受精から出産まで 	<p>◎ 「さわやかに青春」 からだ</p>	<p>愛と性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 性に対する考え方や行動 ・ 性行動の動機に差 ・ 性別と役割 ○ 男女交際と責任 ・ 愛 	<p>◎ 「さわやかに青春」 こころ</p>	<p>「こんにちは青春」</p>	<p>性に関する病気</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 性行為感染症(STD) ・ 感染経路 ・ 10代にかかる性病 ○ 性行為以外の性器の病気 	<p>◎ 「さよなら性病」</p>